

加古川市総合計画（原案）のパブリックコメント 実施結果

いただいたご意見と市の考え方について公表しています。

主催	加古川市 企画部 企画広報課
日時	—
場所	市ホームページ
内容	次期総合計画の策定に向け、令和8年4月15日（水）から令和8年5月15日（金）まで実施した「加古川市総合計画（原案）」に関するパブリックコメントについて、いただいたご意見を踏まえた市の考え方を取りまとめましたので、公表します。 【意見募集資料の配架場所】 市ホームページ、市役所市民ロビー、企画広報課、東加古川市民総合サービスプラザ、各市民センター、各公民館、中央図書館、加古川図書館、ウェルネスパーク、海洋文化センター、人権文化センター、加古川市総合福祉会館 【応募方法】 企画広報課へ持参、郵送、ファックス、メール、市ホームページ又は各施設に設置した意見箱に投函 【意見募集の結果】 意見提出人数：5人（市ホームページ4人、電子メール1人） 意見項目総数：22件（2章 策定の背景9件、3章 策定の考え方2件、5章 将来の都市像1件、8章 施策体系1件、10章 都市空間利用の方向性1件、11章 各施策の基本方針7件、その他1件） ※「いただいたご意見と市の考え方」は別紙のとおり （ ☐ 初めて ☐ 恒例 ☒ 回目 ）
目的・背景 その他	加古川市総合計画の策定にあたり、市民等から広く意見を募集し、計画案に反映するため。 提出された意見の概要及び市の考え方、原案の修正内容については、市ホームページに公表しています。
市ホームページ	掲載済み
広報かがわ	掲載しない

加古川市総合計画（原案）に関するパブリックコメントの実施結果について

No.	該当項目	ご意見等の内容	市の考え方	修正
1	2章 策定の背景	P2からの策定の背景は、現在のタイトルと本文にズレがあるように感じました。「策定の背景」は課題を提示しているのか、方向性を提示しているのか、それぞれの項目のタイトルにばらつきがあると感じました。策定の背景には何を提示すべきでしょうか。	「策定の背景」では、市の方向性を示すのではなく、本市を取り巻く社会潮流や地域の状況、課題認識等を整理し、将来の都市像や各施策の方向性を検討するための前提となる考え方を示しています。 ご意見を踏まえ、章の趣旨がより伝わるよう表現等を工夫します。	有
2	2章 策定の背景	P3「若年層人口の減少」というタイトルでは課題を人口減少そのものに限定して捉える印象を与えています。本文では20～24歳の転出超過の課題を挙げながらも、30～40代の改善傾向や、将来にわたり若年層が住み続けたい、戻ってきたいと思えるまちづくりの必要性が述べられていることから、タイトルにするなら「若年層の定着促進」や「若年層に選ばれるまちづくり」など、政策の方向性が伝わる表現が適切ではないでしょうか。	「策定の背景」については、本市を取り巻く状況や課題認識を整理するとともに、今後のまちづくりを検討するための前提を示しているものです。 本項目では、進学や就職による若年層の転出超過が続いている状況を踏まえ、多様な価値観やライフスタイルに対応しながら、ライフステージに応じて本市を居住地として選択してもらえるまちづくりが必要であるという課題認識を整理しています。 そのため、施策「こども・若者の育ちの支援」、「雇用と多様な働き方の促進」、「シティプロモーションの推進」などをはじめとした、暮らしやすさや地域への愛着の向上につながる取組につなげているところです。	無
3	2章 策定の背景	P4「幸福感と暮らしやすさの向上」のタイトルは、「ウェルビーイングを実感できるまちづくり」としてはどうでしょうか。ウェルネスという言葉が一般的でない時から本市は「ウェルネス都市」を宣言していましたので、「ウェルビーイング」をもっと前面に出してもいいと感じました。また、この言葉は市民の馴染みが薄く、周知がまだまだであると思いますので、本文にそれを入れてもいいのではないのでしょうか。	「策定の背景」については、本市を取り巻く状況や課題認識を整理するとともに、今後のまちづくりを検討するための前提を示しているものです。 本項目では、価値観や暮らし方が多様化する中、市民一人一人のWell-Beingの向上を意識したまちづくりが求められているという社会潮流や課題認識を整理しています。 そのうえで、本計画では将来の都市像やまちづくりの基本理念、各施策の展開においてWell-Beingを重視したまちづくりを進めることとしており、本項目はその前提となる考え方を示しているものです。	無
4	2章 策定の背景	P5「地域コミュニティとこれからの支え合い」では、4行目からの「地域課題は多様化・複雑化しています。」の続きに、前計画の文言「しかしながら防災活動やこどもの見守りなど、地域コミュニティの役割は一層重要になっています」といった文言を追加することや、「人と人が支え合う」を今回から加えるのであれば、「コミュニティの活性化」というより、「育む」という表現がいいのではないのでしょうか。また、「無理なく様々な関わり方ができる～」という表現に少し違和感があるので、6行目からの文章を次のようにできないでしょうか。 「こうした中で、人と人が支え合う地域コミュニティを育んでいくため、多様な世代や立場の人々が互いを尊重し、それぞれの形で地域と関わり続けられる環境づくりが求められます。」	地域コミュニティについては、少子高齢化や単身世帯の増加、価値観やライフスタイルの多様化などにより、従来の地域との関わり方を前提としたコミュニティの維持が難しくなりつつある一方、防災や見守りなど地域における支え合いの重要性は高まっているものと認識しています。 こうした中、それぞれの状況に応じた多様な関わり方を通じて地域とのつながりを維持していくことが重要であることから、ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 「こうした中で、人と人が支え合う地域コミュニティを育んでいくため、多様な世代・立場の人がお互いの価値観を尊重し、それぞれの形で地域と関わり続けることができる環境づくりが必要です。」	有

加古川市総合計画（原案）に関するパブリックコメントの実施結果について

No.	該当項目	ご意見等の内容	市の考え方	修正
5	2章 策定の背景	P6 “社会保障と暮らし方の変容”というタイトルですが、現在の本文は、「社会保障制度そのもの」を示しているというより、「地域で支え合う」「多様な暮らし方」「孤立しない地域社会」等、地域包括ケアや地域共生の視点が中心です。要約すると、「制度だけでは支えきれない時代における地域での支え合いと多様な暮らし方」ではないでしょうか。また、文章の中で「支援を必要とする人が適切に支援を受けることができる環境」と「支援」が重複している文章も気になります。タイトルは“社会保障と暮らし方の変容”より“地域で支え合う暮らしづくり”“支え合いによる地域共生社会の実現”“多様な暮らし方と地域の支え合い”といった表現の方がびったりくるのではないのでしょうか。 6行目からの文章は「本市においても介護や日常的な支援を必要とする高齢者の増加や、障がいのある人、生活に困難を抱える人など、支援ニーズは多様化しており、従来の制度やサービスだけでは対応が難しい場面が今後さらに増えることが想定されます。誰もが年齢や背景に関わらず、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けるためには、健康づくりや生活支援、福祉サービスなど、必要な支援につながる環境づくりが重要です。また、社会保障を取り巻く状況が厳しさを増す中、制度だけに頼るのではなく、人と人とのつながりや地域での支え合いを大切にしながら、多様な暮らし方を支える地域社会づくりが求められています」といった文章はどうでしょうか。総合計画では「制度の限界」を前面に出すより「どんな社会を目指すのか」がよいと思います。	「策定の背景」については、本市を取り巻く状況や課題認識を整理するとともに、今後のまちづくりを検討するための前提を示しているものです。 本項目では、高齢化の進行や支援ニーズの多様化・複雑化が進む中、制度による支援だけでなく、多様な主体による支え合いの仕組みづくりが必要であるという課題認識を整理しています。また、価値観やライフスタイルが多様化する中、それぞれの状況に応じた暮らし方や地域との関わり方を尊重しながら支え合うことのできる社会が求められているものと認識しています。 そのうえで、施策「地域福祉の充実」、「障がい者福祉の充実」、「高齢者福祉の充実」をはじめとした施策の展開につなげているものです。 ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 「本市においても介護や日常的な見守りが必要な高齢者人口は令和22（2040）年頃まで増加していく見込みです。そのほかにも、障がいのある人、生活に困難を抱える人など、支援ニーズは多様化しており、従来の制度やサービスだけでは対応が難しい場面が今後さらに増えることが想定されます。 誰もが年齢や背景に関わらず、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けるためには、健康づくりや生活支援、福祉サービスなど、必要な支援につながる環境づくりが重要です。今後、社会保障を取り巻く状況が厳しさを増す中、制度だけに頼るのではなく、人と人とのつながりや地域での支え合いを大切にしながら、それぞれの状況に応じた多様な関わり方を選択できる社会が求められています。」	有
6	2章 策定の背景	P8 “地域経済と働く環境の変化”では、国際情勢、地方の状況、働き方などの変化が記載されていますが、加古川市として何を指すのかの視点が足りないように感じました。例えば「地域で働き、暮らし続けられる環境づくりを進め、地域経済の持続的な活性化に繋げていくことが重要です」といった文言を追加できないでしょうか。タイトルも“地域経済の活性化と働く環境づくり”“地域産業を支える働く環境づくり”“地域で働き続けられるまちづくり”“多様な働き方と地域経済の活性化”はどうでしょうか。	「策定の背景」については、本市を取り巻く状況や課題認識を整理するとともに、今後のまちづくりを検討するための前提を示しているものです。 本項目では、地域経済や雇用を取り巻く社会情勢の変化や働き方の多様化、人手不足などの課題認識を整理しています。地域経済を維持・活性化していくために地方自治体としてどのような取組が求められるのかという観点から施策「雇用と多様な働き方の推進」、「農業・水産業の振興、工業・地場産業の振興」、「商業・サービス業の振興」をはじめとした取組につなげているものです。 なお、ご意見の趣旨については、今後の施策検討の参考とします。	無

加古川市総合計画（原案）に関するパブリックコメントの実施結果について

No.	該当項目	ご意見等の内容	市の考え方	修正
7	2章 策定の背景	“防災と老朽化への備え、都市機能の再構築”のタイトルですが、本文では、「自然災害リスクの増大」「インフラ・公共施設の老朽化」「財政・人材面の限界」「自助・共助の重要性」など、危機感や制約条件の説明が中心になっており、「再構築」という言葉から受ける将来像や方向性がやや弱く見えます。特に違和感があるのが“都市機能の再構築”です。再構築という言葉は本来、どう再編するのか、どんな都市像を目指すのかまで示して成立すると思います。本文では「維持が困難」「限界」「見直しが必要」という“縮小・制約”の説明が多く、市民からすると、「結局、今まで通り維持できないという話なのか」という受け止めになりやすいです。また、「自助・共助」という文言は防災の視点では重要ですが、総合計画の文脈で強調しすぎると「公助」が後退するのではという印象を与える可能性があるため、「公助」を基盤としながら地域や市民との連携を強化する「自助」「共助」の重要性を理解して頂くことが非常に重要な鍵となります」といった書き方の方がいいのではないのでしょうか。	「策定の背景」については、本市を取り巻く状況や課題認識を整理するとともに、今後のまちづくりを検討するための前提を示しているものです。本項目では、自然災害リスクの高まりやインフラ・公共施設の老朽化、人口減少の進行などを背景に、従来と同様の形で都市機能や地域社会を維持していくことが難しくなる中、限られた人的・財政的資源の中で、必要な都市機能や地域のつながりを持続可能な形で維持していくことが課題であるとの認識を整理しています。 ご意見を踏まえ、下記のとおり、タイトルを修正します。 「災害と老朽化への備え」 また、こうした社会環境の変化の中においても安全・安心な地域社会を維持していくためには、行政による公助の取組に加え、市民や地域による自助・共助の重要性が今後さらに高まっていくものと認識しております。	有
8	2章 策定の背景	P10“暮らしを支える都市空間と移動の在り方”はタイトルが抽象的なので、例えば“人口減少時代に対応した都市空間と移動環境の再構築”“暮らしを守る都市機能と移動手段の再構築”はどうでしょうか。また、本文には、「行政だけでなく、地域や民間などの多様な主体が連携しながら地域機能を支える仕組みづくり」も加える必要はないでしょうか。 図表14のバス運転手の将来推計（全国版）は必要でしょうか。バスだけでなくタクシー運転手も不足しています。現在進行中の地域公共交通活性化協議会で議論されている中で活用できるような資料はないでしょうか。	「策定の背景」については、本市を取り巻く状況や課題認識を整理するとともに、今後のまちづくりを検討するための前提を示しているものです。本項目では、人口減少や高齢化の進行により、従来と同様の形で都市機能や生活サービスを維持していくことが難しくなることが想定される中、持続可能な形で暮らしを支える都市空間や移動環境を確保していく必要があるという課題認識を整理しています。 そのうえで、こうした社会状況の中で行政としてどのような取組が求められるのかという観点から、施策「公共交通の確保」や「良好な住環境の確保」をはじめとした取組につなげているものです。 ご意見を踏まえ、図表については内容を整理するとともに、下記のとおり、P60「公共交通の確保」に多様な主体との連携について追記します。 「交通事業者をはじめ、多様な主体と連携して将来のまちづくりを見据えた持続可能な交通網の構築を図ります。」	有
9	2章 策定の背景	総合計画（原案）における第2章 項目11「情報化・デジタル化の進展」について、生成AIを含む先端技術の活用方針を明記することを提案いたします。近年、自治体業務においてはなど、生成AIの活用が全国的に進んでいます。加古川市においても、行政DXの推進にあたり、生成AIをどの領域で活用し、どのような効果を期待するのか一定の方向性を示すことで、市民・事業者・関係機関にとって分かりやすい計画になると考えます。	本項目については、情報化・デジタル化の進展に伴う社会環境の変化や課題認識について整理しているものであり、特定の技術やサービスを個別に記載するものではないことから、原案のとおりとします。 なお、生成AIをはじめとするデジタル技術については、行政サービスの向上や業務効率化の観点から、今後も技術動向を踏まえながら活用を検討してまいります。	無

加古川市総合計画（原案）に関するパブリックコメントの実施結果について

No.	該当項目	ご意見等の内容	市の考え方	修正
10	3章 策定の考え方	P14 策定の考え方「市民とともにつくる」はとても良い表現ですが、説明文が途中で終わっているように感じました。3段落目の「これまで～計画策定を進めてきました。」で終わっているの、「本計画においても様々な形で市民が参加できる機会を設けます」といった文言の追加が必要ではないでしょうか。	本項目については、計画策定にあたり、市民参加や対話を重視しながら進めてきた経過を記載しています。ご意見を踏まえ、下記のとおり本文を修正します。 「そのため、本計画の策定にあたっては、市民意識調査や地域幸福度調査、加古川市版Decidim（市民参加型合意形成プラットフォーム）、ワークショップ、アンケートなど、世代や立場を問わず、様々な形で市民が参加できる機会を設け、市民とともに計画策定を進めてきました。」	有
11	3章 策定の考え方	P16 地域幸福度調査の図表22の「幸福度×因子の相関係数」の意味、読み方がわかりません。市民にわかるようにして頂きたいです。	「幸福度×因子の相関係数」については、地域幸福度調査における幸福度と各因子との関係性を示したのですが、わかりにくい表現となっていることから、最終版に向けて用語解説等を追加し、市民にわかりやすい表現となるよう工夫します。なお、相関係数が高いほど幸福度との関係性が強いことを示しており、本図表では相関係数が0.4以上の因子を赤字で表示しています。	無
12	5章 将来の都市像	P20 下から4行めからの、「また、人中心のまちづくりを～」の文章が、長くて読みにくいように感じました。輝くを「かがやく」とひらがなにするのも意味を持たせているかもしれませんが、「きらめく」という言葉を明確にするにはここは「輝く」でもいいように思いました。また、「手を取り合いつながり合う」は、「互いに助け合う」と「つながる」が重複して見えるので、「つながり支え合う」の方がいいと思います。ここは「人を中心としたまちづくりを進める中で、夢や希望を描き、自分らしく輝く人々が互いにつながり支え合うことで～」はどうでしょうか。	ご意見をふまえ下記のとおり、修正します。 「また、人中心のまちづくりを進める中で、夢や希望を描き、自分らしくかがやく人々が互いにつながり支え合うことで・・・」 なお、「かがやく」については、基本目標1とのつながりを意識した表現として原案のとおりとします。	有
13	8章 施策体系	P23 施策体系基本目標2の政策（3）の表現は前計画と同じ「安全・安定を確保する」という表現ですが、「安定」は抽象的で市民に伝わりにくい印象があります。「安全・安心」といった平易な表現にした方がいいように感じました。P48からの基本方針も、「安定」を連想させるような内容ではないように感じました。「安定」は、経済や雇用など、生活基盤の維持まで含まれるような気がします。	「安全・安定を確保する」については、災害や犯罪、事故などから市民の生命・財産を守る「安全」に加え、市民が安心して暮らし続けることができる地域社会や生活環境を維持するという意味を含めて使用しているものです。本政策では、防災・減災や防犯、交通安全など、市民生活の基盤となる取組を進めることで、安全で安定した暮らしの実現を目指すこととしています。	無
14	10章 都市空間利用の方向性	土地利用の基本方針について。 北部の温浴施設について、休業してからしばらくたつので、再開や再利用の見通しが立たないようであれば、地熱発電に利用するのはどうか。 エネルギー高騰は将来避けて通れない道。 地熱発電されたエネルギーは、市内の使用に限り安く提供できる等加古川市民、市内事業者にメリットがあれば、市の魅力アップや、幸福度上昇にもつながる。 再生可能エネルギーは未来のエネルギーとして取り組む価値があると思う。 また、民間企業が地熱発電に取り組んでいるとテレビの特集で拝見した事があります。 市内の業者と休業中の温浴施設を活用し再生可能エネルギーの開発ができれば、良いモデルケースになるのではないかと思います。	北部地域については、営農環境の保全と振興を図りつつ、地域資源や既存施設を活用した魅力ある土地利用を進めることとしております。 一方、具体的な施設活用にあたっては、施設所有者の意向や事業採算性、周辺環境への影響等を踏まえる必要があります。 いただきましたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。	無

加古川市総合計画（原案）に関するパブリックコメントの実施結果について

No.	該当項目	ご意見等の内容	市の考え方	修正
15	11章 各施策の基本方針	P35学校教育の充実に、前回計画には記載のあった「インクルーシブ教育システムの構築」が見られません。特別な支援や医療的ケア、外国の児童生徒に対する支援など多様な教育的ニーズへの対応の記載はありますが、インクルーシブ教育システムは重要だと考えます。	学校教育の充実ににおいては、多様な教育的ニーズに対応できる体制整備を進めることとしております。ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 「学校現場においては、特別な支援や医療的ケア、日本語指導など、多様な教育的ニーズに対応できる体制を整備するとともに、インクルーシブ教育システムの考え方のもと、誰もがともに学ぶことができる教育環境づくりを進める必要があります。」	有
16	11章 各施策の基本方針	P38からの（２）みんなが活躍する社会を実現する、のそれぞれの項目の基本方針の書き方が「市民一人一人が」「一人一人が」「すべての人の」とあります。行動や参画を求めるものは「市民一人一人」、利用機会や安心、福祉、環境整備を示す場合は「市民誰もが」「誰もが」といった表現がいいと思います。P38の市民が主体となる協働の推進は「市民一人一人」がいいと思いますが、P39の生涯学習やP40のスポーツ・レクリエーションは「市民誰もが」か「誰もが」がいいと思います。P42の人権文化の確立の基本方針は、「すべての人の人権が」とありますが、「人権」自体が、本来すべての人に保障されるものという意味を持つと思うので「すべて」は不要ではないでしょうか。または、「互いの人権を尊重し～」とするか「多様性を認め合い、人権が尊重される中で～」とする方がスマートに見えます。	ご意見をふまえ、各ページを下記のとおり修正します。 「誰もが学びを通じて成長し、その知識や力を地域や社会に生かせるまちづくりを推進します。」 「市民誰もがスポーツやレクリエーションに親しみ、いきいきと過ごすことができるまちづくりを推進します。」 「互いの人権を尊重し、多様な個性や文化を認め合いながら、誰もが自分らしく暮らせる社会を形成します。」 「誰もが健やかにいきいきと暮らすことができるまちづくりを推進します。」	有
17	11章 各施策の基本方針	P38 の【基本方針】の文言、「地域づくりに取り組む」より「地域づくりに参画し、多様な主体が協働しながら支え合うまちづくりを推進します」としてはどうでしょうか。 【現状と課題】の最後の●「世代や立場を超えて多様な関わり方を受け止め～」の文章表現が気になります。「世代や立場を超えて多様な参加を受入れ、市民一人一人が主体的に地域に関わる機運を高めていくことが必要です」としてはどうでしょうか。	本項目については、多様な主体がそれぞれの形で地域に関わることができるような考え方を含めて記載していることから、原案のとおりとします。	無
18	11章 各施策の基本方針	41ページの「音楽のまち」についてです。 昨年、大盛況だった加古川河川敷の音楽イベントに日韓で人気のアイドルがもっと来てほしいと思います。 国際情勢が変化する中で、政治に左右されない音楽文化を作るためにも、加古川を積極的に活用してほしいと思います。	いただきましたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。	無
19	11章 各施策の基本方針	P43 ①地域福祉の充実の基本方針の「地域の中で」という文言は不要ではないでしょうか。また、施策の方向性の一つ目の◆の地域共生社会の実現に向けて「あらゆる地域住民が排除されず地域社会に～」の「排除されず」という文言が気になります。排除される前提のようにも読めるので、「誰一人取り残されない」「誰もが参加できる」「つながりを持てる」ことを示すような文言がいいと思います。例えば、シンプルに「誰もが地域社会とのつながりを持ち、互いに支え合いながら安心して暮らせる地域づくりを進めます」や「あらゆる地域住民が地域社会に参画し、住民同士が支え合う地域づくりを進めます」などはどうでしょうか。	地域福祉の充実については、誰もが孤立することなく、必要な支援やつながりを得ながら安心して暮らすことができる地域づくりをめざす趣旨で記載しています。 ご意見を踏まえ、表現がより適切に伝わるよう記載を整理します。 「地域共生社会の実現に向けて、誰もが孤立することなく、地域社会に参画し、地域住民同士で支え合う地域づくりを進めます。」	有

加古川市総合計画（原案）に関するパブリックコメントの実施結果について

No.	該当項目	ご意見等の内容	市の考え方	修正
20	11章 各施策の基本方針	P44 障がい者福祉の充実の【施策の方向性】に、重度の障害のある人への視点が見当たりません。24時間のケアが必要な人を支える仕組みが不足しています。医療的ケアを必要とする人など、支援ニーズの高い人が地域で安心して生活できる環境整備を進めます」といった文言が必要ではないでしょうか。	障がい者福祉の充実については、医療的ケアを必要とする人を含め、多様な支援ニーズのある方が地域で安心して暮らすことができるよう、包括的な方向性として記載しています。 具体的な施策や支援体制については、関連する個別計画に基づき取り組んでまいります。	無
21	11章 各施策の基本方針	P58「都市拠点機能の充実」において「にぎわい」を高めるとの記載があります。加古川市で考えておられる「にぎわい」とは現状と比べてどうなれば「にぎわい」と定義されていますか。もしくはどのような状態が「にぎわい」でしょうか。	「にぎわい」については、単に人の往来や集客の増加のみを指すものではなく、地域特性に応じた多様な活動や交流が生まれることで、地域に活力や魅力が創出されている状態を表すものとして使用しています。	無
22	その他	P29やP59に幹線道路についての記載があります（例：神吉中津線など）。可能であれば総合計画の初めに記載されているグラフ等のように、該当の道路を示す地図などを記載していただければ、市内のどの辺りというのがわかりますので非常に助かります。	ご意見のとおり、道路名のみでは位置関係が分かりにくい場合があることから、冊子化にあたっては、現総合計画と同様に都市拠点や基幹交通体系を示した図の掲載を予定しています。	無